

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 20人 国語B 20人

② 算数A 20人 算数B 20人

5 留意事項

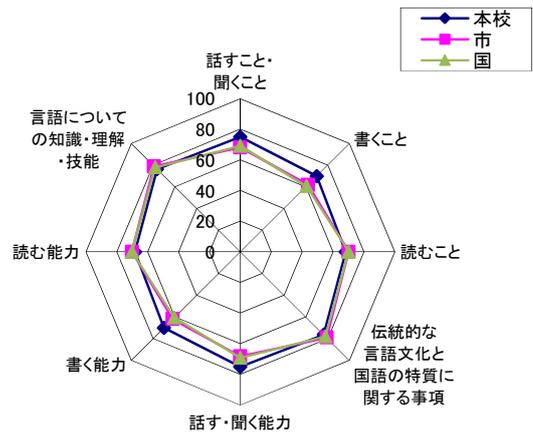
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

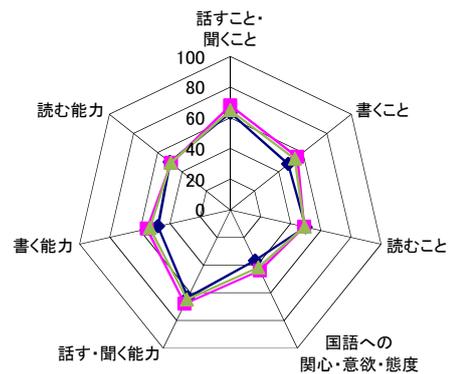
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.0	68.2	69.2
	書くこと	70.0	62.0	60.6
	読むこと	68.3	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.4	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	75.0	68.2	69.2
	書く能力	70.0	62.0	60.6
	読む能力	68.3	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	76.4	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	63.3	68.0	64.9
	書くこと	48.0	55.3	53.4
	読むこと	50.0	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	36.7	43.9	41.7
	話す・聞く能力	63.3	68.0	64.9
	書く能力	48.0	55.3	53.4
	読む能力	50.0	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

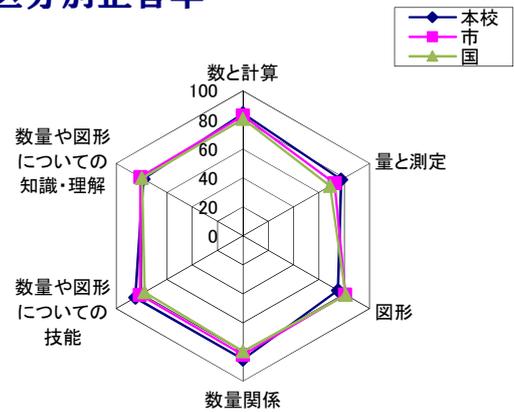
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、国語Aは全国平均を上回るが、国語Bは全国平均をやや下回る。</p> <p>○相手の話をよく聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら話し合えることができている。</p> <p>●目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉づかいで自分の考えを話すことが苦手な児童が見られる。</p>	<p>・本校の会話科で取り組んでいる相手意識を大切にしながら実践的コミュニケーション力の育成とも関連させ、話し手の意図を捉え、話の展開に沿って、会話をしたり、質問したりできるように指導していく。</p> <p>・日常生活における言葉づかいを意識させ、時と場に応じた言葉づかいを継続指導していく。</p>
書くこと	<p>●目的や意図に応じて引用して書いたり、必要な内容を整理して書いたりすることができない児童が多く見られた。</p>	<p>・作文指導では、資料やグラフを活用する際は、それから何が分かり、どのようなことが言えるのかを伝えるために、まず情報を正確に読み取り、自分の意見や考えを明確にしてから書かせるよう支援していく。また、「引用する」という意味が理解できていない児童もみられるため、「引用する」とは、どういうことか確認する。</p>
読むこと	<p>○物語文では、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることができていた。</p> <p>●物語文では、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題の正答率が低かった。</p>	<p>・読解能力を育むために、叙述に即して読むこと、物語の中での山場や登場人物の気持ちの変化などに着目して読むなどの指導をしていく。</p> <p>・多様な文章に触れられるよう、読書活動の充実を図る。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○●漢字については読み、書きともにまずまずの成果である。ことわざも意味を理解し、活用できている児童が多かった。漢字については、一つの読み方でいくつもの漢字がある場合の使い分けができていない児童も見られた。</p>	<p>・漢字の読み、書きについては、より定着するよう、漢字の書き取りを中心に復習していく。その日習った漢字や前日宿題で復習した漢字が身についているか確認するため、朝の時間、帰りの会のわずかな時間を活用し、確認テストなどを計画的に行う。</p> <p>・同じ読み方でいくつもの漢字がある場合は、それぞれの意味を理解させ、適切な使い方ができるように指導していく。</p>

宇都宮市立清原北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

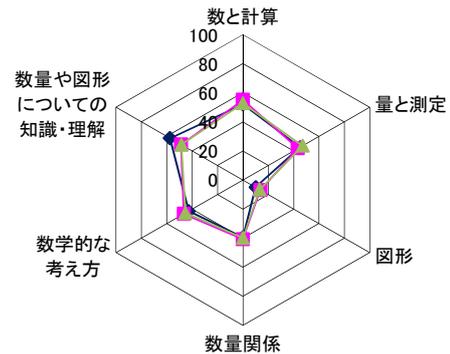
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	84.4	82.9	80.6
	量と測定	77.5	72.5	68.8
	図形	75.0	80.8	81.1
	数量関係	85.0	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	85.0	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	78.6	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	52.0	55.1	52.8
	量と測定	45.0	43.4	47.0
	図形	10.0	13.8	13.2
	数量関係	39.4	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	42.8	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	57.5	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、算数Aは全国平均を上回り、算数Bはほぼ同じである。 ●問題文を読んで理解し、数量の関係を数直線に表す問題の正答率があまり高くなかった。	・文章題では、問題解決をするために筋道を立てて考えられるよう数直線で表す練習をし、活用できるようにする。また、もとにする量、比べられる量などについても確認・指導していく。
量と測定	○●平均正答率は、算数Aは全国平均を上回り、算数Bはやや下回る。平均の求め方の例をもとに、それらを活用し、測定値の平均を求める問題の正答率は低かった。	・平均の求め方は理解できている児童が多いが、長い問題文に戸惑う児童も見られた。問題文を読んで、何を求めればよいかをつかみ、そのためにどうしたらよいかを筋道立てて考えられるよう問題に慣れていく。また、求め方の例の式の意味が理解できていないため、式で表された数字が何を意味しているのかをよく考えるよう指導する。
図形	●正五角形は、5つの合同な二等辺三角形で構成できることを図を見て理解できていない児童が見られた。	・五角形だけでなく、他の多角形の特徴や性質について確認する。また、それらの特徴や性質を活用して図を描くなど体験的な活動を取り入れていく。
数量関係	○平均正答率は、算数Aは全国平均を上回り、算数Bはほぼ同じである。 ●示された式の中の数の意味を表と関連付けながら正しく解釈し、それらを記述する問題の正答率が低かった。 ●もとにする量と割合をもとに比べられる量を判断し、その判断の理由を記述する問題の正答率が低かった。	・割合に関する基本事項を確認するが、数直線で表したり、図で表したりできるよう指導する。その際、具体的な生活の中における使用場面を設定し、意欲的に課題解決に取り組めるようにしていく。

宇都宮市立清原北小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「学校のきまりを守っていますか」、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の肯定割合が高い。引き続き、規範意識や思いやりの気持ちをもってよりよい生活ができるよう、励ましていく。
- 「家の人と学校での出来事について話をしますか」の肯定割合が高い。引き続き、学校の様子や学習内容などについて話し合っていたり、保護者の方にも学校の様子が伝わるようにしていかけてもらいたい。また、そうすることで、保護者の方にも課題などが見えてきて担任と連携できるようにしていく。
- 「新聞を読んでいますか」の肯定割合が高い。考え方が広まったり、深まったりするなど、新聞を読むことの利点について、引き続き指導する。学年だよりなどにより、家庭にも啓発していく。
- 「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」、「自分には、よいところがあると思いますか」では、「当てはまる」と答えた児童の割合が、県や全国の割合を下回る。役割や仕事などを任せ、最後までやり遂げるために、必要に応じて支援をしたり、関心のあることなどを追究させたりしながら、達成感や満足感を味わわせ、自己肯定感を高めていく。
- 「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」では、2時間以上見たり、聞いたりしている児童が3分の2を超えている。家庭での時間の過ごし方について話し合うとともに、保護者の方にも協力いただき、効果的な時間の使い方というものについて見直していく。
- 「家で、学校の授業の復習をしていますか」の肯定割合が低い。放課後等活動(KASA)において学習する時間はあるが、高学年としては、家庭での学習習慣を身につけることが大切であるため、児童や家庭に必要な性を話し、習慣化を図っていく。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」では、肯定的な回答の割合が高くない。学区外から登校している児童が多いということもあるが、地域社会の大切さやありがたさなどについて理解させ、地域社会の一員として自覚を高めていく。また、学年だよりなどで保護者の方にも啓発していく。

宇都宮市立清原北小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本を大切に、他教科や自身の生活体験と結び付けて課題を解決させること。	・日々の授業を大切に、教科書や業者テストの問題に丁寧に取り組ませたり、間違えた問題を直したりする。	・全体的に基礎・基本の定着がみられる。 ・算数科において生活体験と結びつけて考えることができた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・記述式の問題の無回答が多い。複数の資料をもとに自分の考えを書くことが苦手な傾向にある。 ・既習事項や前年度の学習を忘れてしまっている。	・要点をまとめる活動 ・スパイラルによる学習	・中学年から要旨をまとめるなどの活動を意識して取り入れたり、字数制限や短い言葉で要点をまとめるなどの機会を作っていく。 ・単元によって習熟度学習を取り入れる。レディネステストにおいて定着が十分でないときは、前学年の復習を行う。